ありだし社協だより

あがらが主役　あがらが創る　あがらのまち

2023 5

有田市社会福祉協議会
HP はこちら

社協だよりは、「赤い羽根共同募金」配分金と寄付つき商品事業「JUST」による寄付金の一部で発行させていただいています。

特集 令和4年度有田市内3中学校1年生合同「ゆうわプロジェクト」

中学1年生が問い続けた「福祉とは？」

※生徒の最終振り返り文より一部抜粋

本当の暮らしの幸せは
身近にあることに気づけた

一人が幸せに
なっていても
もう一人がつらい生活の
ままだったら
それは福祉の
ゴールではない

皆がつながれる社会になれば
幸せにつながる

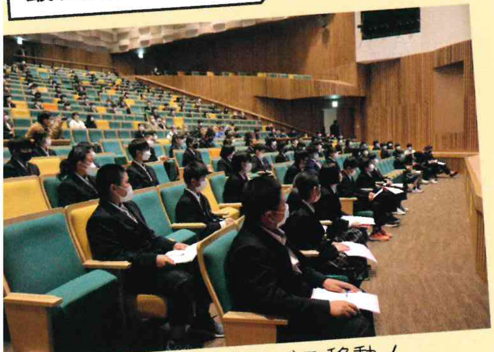
日常生活での
小さな楽しみ・喜びを
一人で味わう
二人以上で分かち合うことが
本当の「福祉」だ

人との出会いが
普段のくらしの
幸せ

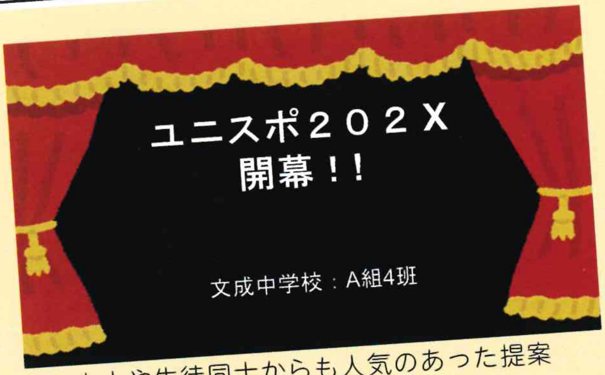
何気ない日常
こそが
しあわせ

「普段の暮らしの幸せ」は
他人が決めることではなく、
その人がどのように感じるか、
受け取るか

最終発表会の様子



保田・文成はバス移動！
９月の中間発表もこの会場で



大人や生徒同士からも人気のあった提案
ユニバーサルスポーツで交流を

大舞台で発表経験が
できるのは有和の特権

それは、正解のない問い

令和６年度の有和中学校誕生に向け、昨年度から既に３中学校が教科書のない「総合的な学習」の時間を一緒に取り組んできました。年間テーマを『ふくし』としていることから、社会福祉協議会もコーディネーターとして参画しました。

去る３月１５日、紀文ホールで「最終発表会」を開催し、１年間の学びと「中学生が考える持続可能な福祉的取組」を３校の代表班が発表しました。

P2-3も併せてご覧ください

特集 令和４年度有田市内３中学校１年生合同 **「ゆうわプロジェクト」**

福祉は中学生の暮らしにも、たくさんのところでつながっている 授業で出会った皆さんから多様な「気づき」と「学び」をえました

「福祉」を考えるために、『第３次有田市地域福祉活動計画』の４つの重点課題「つながりの希薄化」「共助のための担い手不足」「当事者の課題共有」「情報発信」を中学生の立場で考え、仮説から検証、提案へと進めました。

①仮説検証のために、40 班が地域インタビューを実施。

②地域にあるたくさんの「店」を知ることで地域とつながる取組のご紹介と、暮らしを支える「職」、そこにたどり着くための相談機能のご紹介。

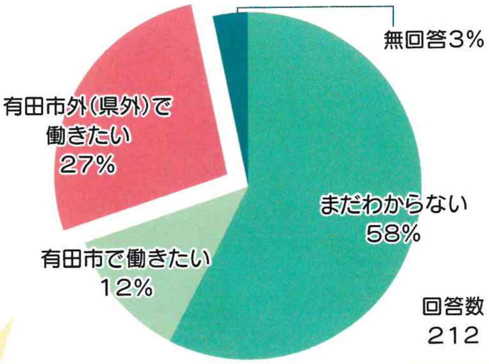
③どんな分野の「職」にも、福祉が関係していることを知ってもらいました。

授業に参画した皆さんは

のべ 80人超

将来働く場所の希望（中学１年生全体）

令和4年10月20日～同年11月4日実施



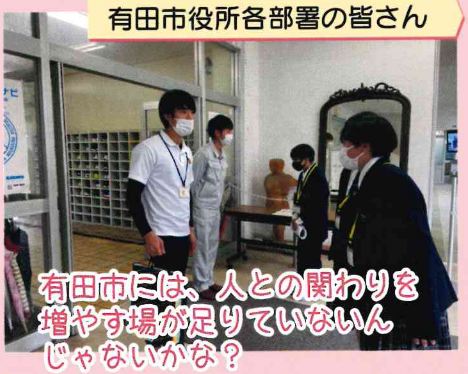
中学１年生は、将来どこで働くのかはまだまだわからない状態です。

そうであるならば、中学生がもっと有田市を知り、多様な方々と関係性をつくることで、有田市で暮らすという選択肢を増やしていけるのではないでしょうか。

① 地域インタビュー 2022年10月17日 約50名が対応

NPO法人わいがや娘の会

有田市役所各部署の皆さん



車いすユーザー

② 「職」に関する出前授業３本 2022年10～12月

紀州有田商工会議所

ハローワーク湯浅

若者サポートステーション Withyouわかやま

③ 未来の就職説明会 2022年12月16日 参画企業20社

ライオンケミカル

きのくに信用金庫

ヒカル・オーキッド

学んだ中学生の「声」

職種は違っても、どの企業も**働いている人は生き生きとしている**と感じた。

自分の生まれ育った地域で働く事で、自分が地元にたりないことをよくわかっているし、**地元の活性化**などにつながる。

僕は**有田市で働きたい**と思いました。田舎の有田にもさまざまな企業があるということが改めて分かりました。

どの企業の人たちも、社会をよりよくし**地元の人たちが安心・安全で、平和に、豊かに暮らせるように**自分たちにできることを行動に移してそれを実現させていました。

ゆうわプロジェクトで、全然興味も関心もなかったけれど**『福祉』**について少しでも知ることができて良かった。

誰かに相談に乗ってもらうことで少しでも気が楽になる。**私たちが大人になったら出来ること**、しなければならないことが増えてくる。

気持ちを伝えることこそ福祉につながると分かった。

相談してもいいんだと一人でも思ってくれていたらうれしいな。

このゆうわプロジェクトを通して、**地域や社会のことは自分と無関係なことではなく**、どんな小さなことがらでも責任をもって関わるということが大切だと考えました。

一人が頑張って地域を変えていくのではなく、**一人ひとりの心がけと、変えていきたいと思うことが大切**と学んだ。

どうしたら課題を解決できるのか、そのために**どのようなことをすれば楽しみながら参加できるのか**、そこを一生懸命考えることで、課題解決に一歩近づくのだと分かりました。

授業に参画いただいた皆さん
(敬称略・順不同)

桑原安子(車いすユーザーとして)
就労継続支援B型事業所　AGALA
紀州有田商工会議所
NPO法人わいがや娘の会
県立箕島高校
NPO法人Webleaf
有田市出身大学生
３中学校学校運営協議会
公民館
保田地区子ども食堂
宮原老人クラブ
若者サポートステーションわかやま
Withyouわかやま
ハローワーク湯浅
きのくに信用金庫
浜のうたせ(有田箕島漁業協同組合)
ヤビツビレッジ
ライオンケミカル株式会社
TKLC株式会社
有限会社 ヒカル・オーキッド
株式会社 オレンジライフ
株式会社 亀井
株式会社 ユニワールド
木本産業株式会社
株式会社　サカモト
株式会社 KL
株式会社 中紀バス観光社
エム１４１地所
株式会社 早和果樹園
株式会社 松林
有田市立病院
有田市
　ふるさと創生室ブランド推進係
　経営企画課まちづくり係
　高齢介護課介護予防係
　福祉相談室
　産業振興課水産係
　教育委員会生涯学習課社会体育係
　消防本部
有田市ボランティアセンター
有田市社協ケアマネージャー
有田市身体障がい者連合会事務局

社会福祉協議会主催 グラウンドゴルフ大会のお知らせ

赤い羽根共同募金配分金事業として、グラウンドゴルフ大会を行います。たくさんの方のご参加をお待ちしています。

日　時：２０２３年６月２日(金)　午前８時３０分より
　　　　(雨天の場合は６月６日(火)に延期します。)
場　所：ふるさとの川総合公園　多目的運動場
対象者：概ね６０才以上の方
申込み：５月２６日（金）までに、本会あて氏名、性別、生年月日、電話番号を電話にて申込お願いします。

※開催について、中止又は延期することがあります。その場合は、本会ホームページ上で告知しますのでご確認ください。

有田市社会福祉協議会では、子どもたちと共に有田市の中に交流や学びの機会を創っていきます。

プロセス

ゆうわプロジェクト詳細は、QRコードから「ワーカーブログ」をご覧ください。

有田市内の活動者を応援します

有田市ボランティア・市民活動応援助成 スタート!

この助成は、有田市社会福祉協議会が、有田市内で活動するボランティア団体や福祉団体、まちづくり団体等に対して助成することにより、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らすことができる町づくりを推進することを目的としています。

【助成対象団体】

有田市を活動拠点とし、子ども･障がい者･高齢者等の日常生活支援、社会参加、災害対応･防災、社会福祉施設支援、その他の地域福祉支援・まちづくり等を目的に活動している団体

また、次に掲げる事項を条件とします。

（１）有田市ボランティア連絡協議会に加入していること　※新規加入可
（２）地域福祉活動について理解・共感しており、助成金を受け事業を行っていることを広報するよう努める団体であること
（３）地域活動総合情報サイト「あるある arida」に登録していること
（４）その他、本会が必要と認めたもの

【対象となる活動】

有田市内で実施又は有田市民を対象とする次の活動

（１）被助成団体の資質向上を目的とした研修
（２）地域福祉・まちづくりを目的とした福祉団体やボランティア団体などの活動費

但し、次の内容に該当する場合は対象となりません。

（１）その名称の如何にかかわらず、営利のために行っているみなされる事業
（２）社会福祉を目的としても、政治、宗教、組合等の手段として行う事業
（３）行政からの補助金又は委託金を財源としている事業
（４）助成による効果が期待できない事業

【決定通知】

本会による審査を実施し、申請団体あてに通知します。

【助成額】

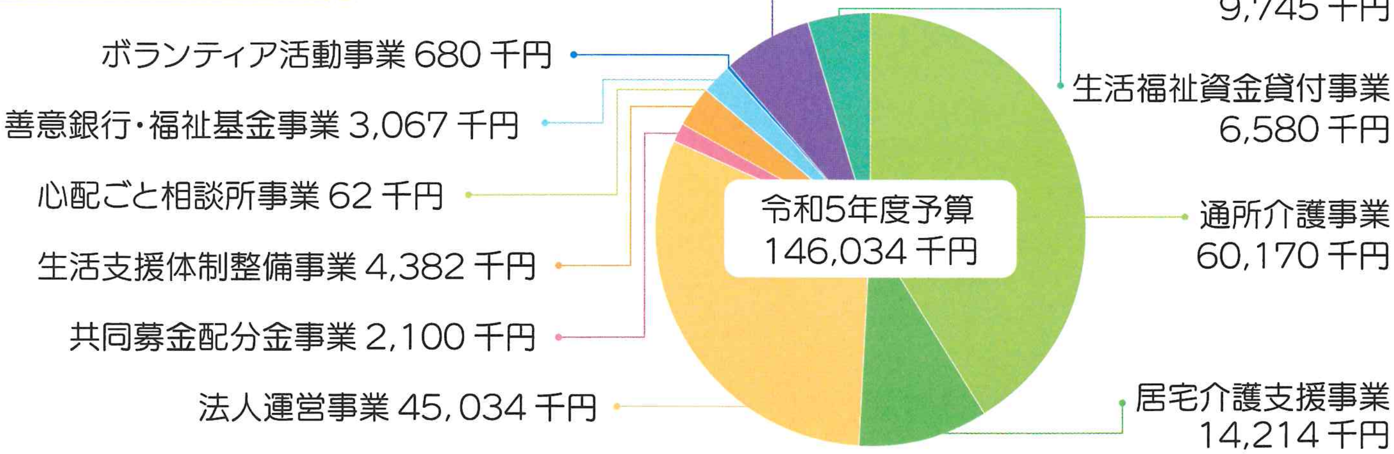
１団体　５万円以内
（予算額 15 万円）
（助成決定後、社会福祉協議会が請求者に支払い）
※予算額に達成次第締切

【申請期限】

令和5年12月28日(木)
※申請様式は本会ホームページからダウンロードいただくか、窓口へお越しください。

お問合せ先
電話　0737-88-2750

令和5年度予算



〒649-0432 有田市宮原町東 215 番地 有田市福祉館なごみ内
TEL 0737-88-2750 FAX 0737-88-2033
URL https://aridashi-shakyo.jp/